

ハマル語の文例集、および文型の分類*

高橋 洋成

(筑波大学)

s025035@u.tsukuba.ac.jp

0 はじめに

本稿はエチオピア南西部の低地オモ渓谷で使用されているオモ系言語の1つ、ハマル語に関する調査報告である。この言語の主要話者であるハマル族の人々は、ディメカおよびトゥルミという町を中心として広範囲に定住している。今回の調査は、それらの町から約120kmから160km余り離れたジンカにおいて、2011年2月に行われた。ジンカはエチオピア南西部における交通の要所であり、学校教育も比較的盛んである。調査に協力して下さったのは、トゥルミ出身で現在はジンカの高等学校に通っている Bodo Kala 氏 (20歳) である。氏の御協力にこの場を借りて感謝を申し上げたい。

今回の調査では、ハマル語の統語構造を調べるために例文の収集を行っている。ハマル語の包括的な記述を行っている先行研究には Lydall (1976) があるが、今回収集した例文と照らし合わせてみると、食い違う記述が少なからず存在する。その理由として、時代差・地域差¹・社会階級差²などが考えられるが、今回の調査ではそうした違いを明らかにすることよりも、多数の基本的な例文を収集し、文型ごとに分類することに努めた。

1 表記について

1.1 音素とアクセント

ハマル語の子音音素目録、および本稿で用いる表記は次の通りである。

*本稿は2007年度～2010年度科学研究費基盤研究(B)「オモ・クシ系少数言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築」代表：乾秀行(山口大学)(研究課題番号：19401023)による研究成果の一部である。

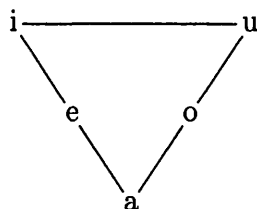
¹少なくとも、ディメカを中心とするハマル語と、トゥルミを中心とするハマル語とでは、方言差と呼べる違いがあるように思われる。

²Lydall (1976: 397) は、警察・商人およびハマル語を母語としない人々が使用する“Pidgin Hamar”の存在について触れている。

	唇音	歯音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音		
閉鎖音	p	b	t	d	k	g	ʔ
鼻音		m	n	ɲ	(ŋ)		
震え音			r				
摩擦音			s	z	š		h̥
側面音			l				
接近音	w			j			
破擦音				č	ǰ		
放出音			t'	č'		q'	
入破音	β		d'			g'	

/ŋ/ は大抵の場合 /g/ の位置異音と考えられるのだが、一部の名詞で語の弁別に関わっているため³、機能性の低い音素として現時点では括弧に入れている。これらに加え、p̄、k̄のように上線・下線付き記号を用いることがあるが、これらは /p/ と /k/ が摩擦音化していることを表すものであり、独立音素ではないことに注意されたい。

ハマル語の母音音素目録、および本稿で用いる表記は次の通りである。



実際の発音としては、/e/ は /i/ の範囲に食い込むほど狭く、一方で /i/ はしばしば中央化・無声化する。本稿では、無声化した /i/ を /i̥/ と表記する。アムハラ語からの借用語にはしばしば /ə/ が出現するが、現時点ではハマル語の母音音素として含めていない。

これらに加え、長音 /e:/ および高ピッチアクセント /é/ を表記する。これらは語彙を弁別する機能と、語の形態を識別する機能の両方を持つ⁴。

1.2 動詞の語幹形成母音

動詞語幹は、語幹形成母音として /-a/ を持つもの (A 語幹、完了語幹)、 /-e/ を持つもの (E 語幹、未完了語幹)、 /-i/ を持つもの (I 語幹、状態語幹)、 /-o/ を持つもの (O 語幹、目的語幹) に分類される⁵。

³例えば、/ɲapaŋa/ 「刀」。

⁴前者は予測不可能であるが、後者は予測可能であることが多い。

⁵Lydall (1976: 418)、高橋 (2009: 111-116) を参照。

本稿では、語幹形成母音として /-a/ を持つ動詞を、動詞 (A) のように表記する。

2 ハマル語の文と動詞形態

2.1 存在と状態

存在文を作るには /da/、/de/ 「ある」を置く⁶。

- (1) gešo bodo fiambe jinka ki de
～氏 寝る ジンカ 彼 いる
「ボド氏はジンカに住んでいる。」

- (2) á:ka arbaməñč ko de
祖母 アルバミンチ 彼女 いる
「祖母はアルバミンチに住んでいる。」

逆に、「～がない」ことを表すには /q'ole/ を置く⁷。

- (3) ísa kojmo geβi q'ole mango šanán na
私のお金 多い 無い マンゴー 買う ～するために
「マンゴーを買うにはお金が足りない。」

コピュラとして用いられるのは /ne/ である。

- (4) man be anği be é:di nɑ:si ne
男性 ～も 女性 ～も 人 子ども だ
「男も女も人間だ。」
- (5) zóbona kátti ga:ri dabí ne
ライオンの群れ 大いに 大きい 動物 だ
「ライオンは非常に大きな動物だ。」
- (6) zóbona dabí síja ne
ライオンの群れ 動物 悪い だ
「ライオンは危険な動物だ。」
- (7) apálá ka kojmo mémaj ne
服 このお金 いくら だ
「この服はいくらか。」
- (8) apálá fianče kátti pajja ne
服 君の 大いに 良い だ
「君の服は非常に良い。」

⁶Lydall (1976: 434)。

⁷Lydall (1976: 435) では /kolei/。

否定のコピュラは /te/ で表される。

- (9) kisi kína kóte té
彼 今日 ここ ~でない
「彼は今日ここにいない。」

次に挙げるのはコピュラを用いた名詞文・形容詞文の例である。

- (10) ímiso ó:nno ro:ro wúl č'ánkál ne
私の友人 家 日 全て 清潔だ だ
「友人の家はいつもきれいだ。」
- (11) borq'oto inčé ne
ボルコト 私の だ
「ボルコトは私のだ。」
- (12) raq'a te pú:mánó pač' ne pajjánó
場所 ~で 花 多量 だ 良い
「庭では美しい花がいっぱいだ。」
- (13) kisi kátti e:di gari dis ne kisa q'a:bono jer wúl desán
彼 大いに 人 大きい おかしな だ 彼の 考え もの 全て 知る
na
~するために
「彼は非常におかしな人だ。彼は何でも知りたがる。」
- (14) na:na agilla sa zaráno kátti šiti ne
子ども達 赤ん坊 ~の 皮膚 大いに 柔らかい だ
「赤ん坊の皮膚は非常に柔らかだ。」

形容詞文では、形容詞がしばしば繰り返される。

- (15) e:no pe:n wa:na wa:na geno kosa gilono wa:na wa:na ne
人々 地 異なる 異なる 彼女の 文化 異なる 異なる だ
「異なる国の人々の文化は異なる。」

後接辞 /-u/ は疑問文を作る。通常、この接辞はアクセントを持たないため、文全体のイントネーションが下降調になる。

- (16) ja jera síja fa:pídíu
君 もの 悪い 見たか
「君は事故を見たか？」
- (17) murá ínta a:šáú
銃 私 他か
「他の銃でも良いか？」

2.2 完了と未完了

通常、ハマル語の動詞形態は時制を示さない。時制を明示する必要があるときは /ta:ki/ 「今」、/na:/ 「昨日」 など時間を示す語を併用する。

主語 + 動詞 (A) の例を挙げる。

- (18) kisi pé: fiámó rá ki naʔá
彼 地 どこ ~から彼 来る
「彼はどの国から来たのか？」

主語 + 動詞 (E) の例を挙げる。

- (19) inta fiambet ga:lín dar i jéʔé
私 君と 宴会 ~に向かって私 行っている
「私は君とパーティーに行く。」
- (20) kisi ró:ro wúl gojítí tipá ki gijé
彼 日 全て 道 正しい彼 伝える
「彼はいつも正しい答えを言う。」
- (21) ísa metén ko bučče
私の頭 彼女 痛んでいる
「頭が痛い。」

主語 + 動詞 (A) + /de/ の例を挙げる。

- (22) kisi ka kot ki da:n jammara de
彼 これここ彼 いる 始める いる
「彼はすでにここを出発した。」
- (23) anǵaski so:ton fia:ma síja i fiamba de
昨日 夜 夢 悪い私 寝る だ
「昨夜、私は悪い夢を見た。」
- (24) inta mosko:te burimi ki de i našade fiájno koint arde
私 窓 開ける 彼 いる 私 愛した 太陽 入っている
zagáde
欲している
「私は窓を開けておきたい。日光を入れたい。」

主語 + /da/ + 動詞 (E) の例を挙げる。

- (25) inta ro:ro wúl búno i da wučé
私 日 全て コーヒー 私 いる 飲む
「私はいつもコーヒーを飲んでいる。」

動詞 (A) + 主語 + 動詞 (A) の例を挙げる。

- (26) gušón innon taká i taká aṗalan dar isa zombi fiammídi ne
 指 私の 切る 私切る服 ~の上に私の血 見た だ
 「指を切って、服が血で汚れた。」

動詞 (A) + 主語 + 動詞 (E) の例を挙げる。

- (27) ro:ro wa:ni gina jinka do:bi ga ko ge
 日 別の ジンカ雨 降る 彼女 降る
 「ジンカでは時々雨が降る。」

- (28) astamare šedá ki šedé
 先生 見る 彼 見ている
 「先生は世話をしている。」

動詞 (A) + 主語 + /da/ + 動詞 (E) の例を挙げる。

- (29) ro:ro wa:nín ka wosi o:šó wo da o:šé
 日 別の ~を伴って 我々 話し合う 我々 いる 話し合っている
 「我々は時々議論を交わす。」

動詞 (i) + 主語 + /da:de/ の例を挙げる。

- (30) kisi ísa ga:lin geti ki dá:de
 彼 私の 宴会 祝う 彼 している
 「彼は私の誕生日 (パーティー) を祝った。」

動詞 (A) + /-te/ + 主語 + /da:de/ の例を挙げる。

- (31) na:na ša:kana wul ra:n kumáte ki da:de
 子ども 赤ん坊達 全て ミルク 飲み切っていない 彼 している
 「赤ん坊が皆、ミルクを飲んでいる。」

- (32) galano jeskate ko da:de
 食べ物 到着していない 彼女 している
 「食事はまだできていない (もうすぐだ)。」

2.3 状態と叙述

動詞 (I) + /-da/ の例を挙げる。

- (33) ímba idan gutumin ka ba?ída ne
 私の父 私を 肩 ~の上に 運んだ だ
 「父は私を肩に乗せた。」

動詞 (I) + /-di/ の例を挙げる。動詞 (I) はしばしばコンピュータ ne を伴う。

- (34) kisi kátti ukulín q'anídí ne
 彼 大いに ロバ 叩いた だ
 「彼はロバを激しく叩いた。」
- (35) kosi ta:ki ga:di da:se ma:tídi ne
 彼女 今 歌 歌うものなる だ
 「彼女は今、歌手になった。」
- (36) kisi naʔájse ekár dorq'ídi ne
 彼 来るもの 私の側に 座った だ
 「彼は来て私の隣に座った。」
- (37) e:di malgimé genimídi ne
 人 不注意な 遭難した だ
 「不注意な人は災難に遭う。」
- (38) q'aski le:pín jinnon gaʔídi ne
 犬 骨 自身の 咬んだ だ
 「犬は骨をしゃぶる。」
- (39) ro:ro wa:ni gina jinka do:bi g'ájídi ne
 日 別の 雨 降った だ
 「ジンカでは時々雨が降る。」
- (40) inta jera síja kote ardátí ne
 私 もの 悪い ここ 入った だ
 「私はこの問題を今は解決できない。」

動詞 (I) が形容詞的に用いられることも多い。

- (41) inta likka q'ajadídi ne
 私 小さい 疲れた だ
 「私は少し疲れた。」
- (42) wodánó koro kátti ójdi ne pe: wúl gídr
 天気 この 大いに 暑い だ 地 全て ~より
 「この国全土の気候は暑い。」

2.4 予定と意思

動詞 (E) と動詞 (O) は予定・意志・可能性などを表すことができる。

- (43) fiá: neʔe já
 いつ 来ている 君
 「君はいつ来る？」
- (44) sa: kisi sa:ka kote náʔá ki neʔe
 そこ 彼 明日 ここ 来る 彼 来ている
 「彼は明日ここに来る。」

動詞 (O) は、目的を表すのに単独で用いることができる。

- (45) wosi na: a:ka ɖan šido jeʔédí ne
我々 昨日 祖母 ~を見るはず 行った だ
「我々は昨日、祖母を訪問しに行った。」

動詞 (A) + 動詞 (O) の例を挙げる。

- (46) náʔá noʔo já
来る 来るはず 君
「君は来られるか？」
- (47) kummá kummo já
食べる 食べるはず 君
「君は食べられるか？」
- (48) bánzo ja borq'oto sa: agá ina baʔá boʔo
どうか 君 ボルクト そこ この 私に 運ぶ 運ぶはず
「どうかそこのボルクトを持ってきてくれ。」

動詞 (A) + 主語 + 動詞 (O) の例を挙げる。

- (49) kisi náʔá ki noʔo
彼 来る 彼 来るはず
「彼は来る。」

動詞 (A) + 主語 + /da/ + 動詞 (O) の例を挙げる。

- (50) inta náʔá i da noʔo
私 来る 私 いる 来るはず
「私は来る。」

2.5 動詞の否定形

動詞の否定形を作るには、動詞 (A) に /-jje/ を後接する⁸。

- (51) kisi gilon innon našájje
彼 話 私の 好きでない
「私は彼の話信じない。」

/-ma:/ を後接して作る否定形の例を次に挙げる⁹。

- (52) fiatté ko dese datta ena jín fia:pa:má: ɖan
どのように 彼女 殺す 動物 過去 彼 見ていない ~を
「これまで見たことのない動物をどうやって殺すか。」

⁸Lydall (ibid.) には該当する記述が見当たらないが、類似した形態が関係詞として説明されている。

⁹Lydall (1976: 419)。

また、/-ti/、/-to/ を後接する方法もある¹⁰。これは動詞を状態語幹化するため、しばしばコピュラが後続する。

動詞 (A) + /-to/ の例を挙げる。

- (53) po:lonin ro:ro da: wosi fiáj fiapátó ne
雲 日 いる 我々 太陽 見られないだ
「曇りの日には、我々は太陽を見ることができない。」

動詞 (A) + /-ti/ (/te/) の例を挙げる。これは現在の行為を否定する。

- (54) inta tamaráte ne q'a:be ka ka konna
私 学ばないだ 考え この～を伴って～ならば
「私はこのような気分では勉強できない。」

動詞語根 + /-ati/ は過去の行為を否定する¹¹。

- (55) inta gojiti apá:ti ne fiadan barjo ime fiamá:n na
私 道 見ないだ 君を 神 与えている する ～すること
「私には、君に『ありがとう』を言う機会がなかった。」

2.6 動詞の命令形

命令形には 2 種類あり、一人に対しては A 語幹、複数に対しては E 語幹の動詞を用いる。

否定的な命令文を作るには /gara/ 「残す、止める」の命令形を用いる¹²。

- (56) tuɖumba šadán gara ɖukan fia utí na
後ろ 見る 止めよ 山 君 登っている
「山を登っているとき、後ろを見てはならない。」
- (57) nú:n kal wojan gara, nu:no síja ne
火 ～の側 立つ 止めよ 火 悪いだ
「火の側に立ってはならない。火は危険だ。」
- (58) ra:na ojdi te, kumán gara
ミルク 温かい～でない 飲む 止めよ
「ミルクは新鮮でない。飲まないように。」
- (59) isa televijin in šidén te dorq'an gara, ja kátti guduɖ ne
私の テレビ 私 見る ～で 座る 止めよ 君 大いに 長い だ
「私の見ているテレビの所に座らないように。君は長く居すぎだ。」

¹⁰Lydall (1976: 419-420) は不規則な否定形として説明している。

¹¹Lydall (1976) には記述が見当たらない。

¹²Lydall (1976: 427)

- (60) gojín sagan gare nurta derá jedi na
道 渡る 止めよ 火 赤い 見せる
「信号が赤のときは、道路を渡ってはならない。」

また、命令形の後に /bode/ を置くことで禁止を表す。

- (61) b̥rajs̥ fia jeʔen ka angamma fia wala bode
前に 君 行く ~を伴って 荷物 君 忘れよ するな
「君が出かける前に、荷物を忘れないように。」
- (62) angamma fianna fia wala bode
荷物 君にあるなら 君 忘れよ するな
「君の荷物を忘れないように。」
- (63) fiadan na taká bode sa: alpa č'are ka
君を 切れ するな そこ ナイフ 鋭い ~で
「その鋭いナイフで自分を切らないように。」
- (64) o:nin jin pajdon gidr jér kala fia q'unta bode
家 彼 良くなった ~よりもの 1 君 壊せ するな
「この美しい家で、何一つ壊さないように。」
- (65) fiadan giða jer síja wá:dímá bode
君を 気を付けよ もの 悪い 仕事 するな
「愚かなことをしないよう気を付けよ。」
- (66) burčoq'o q'óntá bódé
グラス 壊す ~するな
「グラスを壊さないように。」

3 ハマル語の文と後接辞

3.1 na

/na/ は名詞・代名詞の後ろに置かれていわゆる与格を作り、「~に対して」「~のために」「~の理由で」などの意味を表す¹³。

- (67) índa q'aské: na pím̥ba ko pím̥be
私の母 犬 ~が原因で 恐れる 彼女 恐れている
「私の母は犬が怖い。」
- (68) inta ikánin na anḡamo šanídí ne kona ga:lin
私 私の妹 ~に 贈り物 買った だ 彼女のための 宴会
「私は妹の誕生日プレゼントを買った。」

¹³cf. Lydall (1976: 410-411)

- (69) inta í:šinna kisa ga:lin na alpa šanídí ne
私 私の兄 彼の 宴会 ~のために ナイフ 買った だ
「私は兄の誕生日にナイフを買った。」
- (70) ro:ro wúl wosi jín wo arse aḫalan dan pehén q'ají na
日 全て 我々 自身 我々 着ている 服 ~を 地 冷たい ~に
「我々は、天気が寒いときにいつも服を着る。」
- (71) wosi ga:lin na fia:q'an a:pín pučídí ne
我々 宴会 ~のために 木 目 集める だ
「我々はパーティーのために果物を集めた。」
- 動詞に /na/ が後続することで、「~するために」など行為の目的・理由（行為の向かう先）を示す¹⁴。
- (72) ja jera ka šanán na šilinge č'ammarsa ko č'ammarse
君 もの この 買う ~するため 50 セント 加える 彼女 加える
「君がそれを買うのに、50 セント加えねばならない。」
- (73) jesi kínká dalkidú koimon kašan na
君達 一緒に 話したか 金 支払う ~するために
「君達はお金を支払うのに話し合ったか？」
- (74) imal t'eḫán te kaḫán na kátti síja ne
私自身 暗闇 ~の中で 滞在する ~すること 大いに 悪い だ
「暗闇にひとりでいるのはあまりに恐ろしい。」
- (75) inta kátti jer ina pajja ne fia na?án na
私 大いにもの 私に 良い だ 君 来る ~のために
「私は君が来てくれて嬉しい。」
- (76) kátti datá ko dete duka ka után na
大いに 重い 彼女 重い 山 この 登る ~すること
「この山に登るのはつらい。」
- (77) šaranko ka kátti detá ki deté ba?án na
鞆 この 大いに 重い 彼 重い 運ぶ ~すること
「この鞆は運ぶには重すぎる。」
- (78) borq'oto kátti detá ki deté ba?án na
ボルコト 大いに 重い 彼 重い 運ぶ ~すること
「ボルコトは運ぶには重すぎる。」
- (79) wosi kidan kelsén na wo gobete won ne?en kisi
我々 彼を 助ける ~するために 我々 走り切つてない 我々 来ている 彼
di:di ne
死んだ だ

¹⁴Lydall (1976: 424;425)

「我々は彼を助けに駆けつけたが、彼は死んでいた。」

/na/ を後接した動詞を、他の動詞を補うように用いることができる。

- (80) inta šo:ší o:nín innon t šo:šinša na naša i da
私 客 家 私の ~の中に招く ~すること 好きだ 私 いる
naše
好きでいる
「私は家に客を招くのが好きだ。」
- (81) kosi baxman na ko dá:de
彼女 料理している ~すること 彼女 いる
「彼女は料理を始めた。」
- (82) inta kelšen na i dá:de
私 助けている ~すること 私 いる
「私は助け始めた。」
- (83) inta ra:q'i šuđi genti dar dorq'an na našá i da naše
私 場所 草 上に座る ~すること 好き 私 いる 好きでいる
「私は草原に座るのが好きだ。」
- (84) inta bonán ka q'aji šají wuča na i zage
私 雨期 ~を伴って 冷たい お茶 飲む ~すること 私 欲している
「私は夏に冷たいお茶を飲みたい。」
- (85) inta de:sá na q'a:bídi ne
私 狩る ~すること 考えた だ
「私は狩りすることを決めた。」
- (86) bitá e:n ga:rin wul đan čo: o:nin jinnón t gošpí na e:lídi
王 人 大きい 全て ~を下 家 自身の ~で 招く ~するために 呼んだ
ne
だ
「王は全ての重臣を宮殿に招待した。」

次に挙げるのは、/na/ を用いた関係節の例である。これは「~の理由で」「~するとき」などの意味を表す。

- (87) kisi ro:ro wúl kin pō:gómó đalq'en na e:di kidan ammane
彼 日 全て 彼 嘘 話す ~するために 人 彼を 信じない
「彼はいつも嘘をつくために、誰も彼を信じない。」
- (88) ímba ro:ro wúl ekál i wodí na inka nagaja woda
私の父 日 全て 私によって 私 眠り ~に向かう 私によって 良い 眠る
fia:ma ki q'a:mi
する 彼 聞こえている
「父は毎日、私が寝る時に『おやすみ』と言っている。」

3.2 *ɗan*

/ɗan/ は名詞・代名詞の後ろに置かれていわゆる対格を作り、「～を」などの意味を表す¹⁵。

- (89) *inta q'a:be ká ɗan tijátí ne*
私 考え この～をとらないだ
「私はこの考えを採らない（反対だ）。」

- (90) *bánzo warkata ka ɗan keda taká*
どうか 紙 この～を半分 切れ
「どうか、この紙を半分に切ってくれ。」

動詞に /ɗan/ が後接することで、行為全体を目的語であるかのように扱うことができる¹⁶。

- (91) *ro:ro wúl ja fiamba gije ɗan q'ansá*
日 全て 君 君の父 伝える ～すること 聞く
「君は常に父君の言うことに耳を傾けねばならない。」

- (92) *inta ta:ki ɗ'an desá:ti ne jerin in fiájén ɗan*
私 今 まだ知らなかった だもの 私 ～すること ～を
「私が何をするか、まだ分かっていない。」

- (93) *wo kidán ɗattise fiámóte won deén ɗan*
我々 彼らを知らせよ どこに 我々 いる ～すること
「我々がどこにいるか、彼らに知らせよ。」

- (94) *e:di kala gije da:u kot fiar kon sijón ɗan*
人 1 伝えている いるか ここ 何 彼女 悪くなる ～を
「ここで何が起こったかを教えてくれる人はいるか。」

3.3 *ka*

/ka/ は名詞・代名詞の後ろに置かれていわゆる具格を作り、「～で」「～によって」「～を用いて」などの意味を表す¹⁷。語頭の /k/ はしばしば摩擦音化して /k̠/ [x] として実現する¹⁸。

- (95) *fiana qabe ka in gijono kátti p̄ajja kin donna ne*
君に向かって 考え この 私 伝えるはず 大いに 良い 彼 持つ だ
「君のこのアイデアは非常に良い、ということで、彼は採用した。」

¹⁵Lydall (1976: 412)

¹⁶Lydall (ibid, 426)

¹⁷Lydall (1976: 410)

¹⁸それゆえ、指示詞の /ka/ 「これ」と区別することは比較的容易である。

- (96) ka apálá á:nin ka ki ašadade
 この服 手 ~によって彼 作られている
 「この服は手作りだ。」

動詞に /ka/ が後接することで、「~するとき」「~した後」など、その行為が背景にあることを示す関係節を作る¹⁹。

- (97) jera síja ketáka sadán ka daqána é:dí láma biší ne
 もの 悪い ~するとき わずか 人 2 体 だ
 「その事故が起きた後、わずか二人しか生き残らなかった。」
- (98) kođan fian šeden ka na:si ko tafía de
 彼女を 君 見る ~で 子ども 彼女 似る いる
 「君が彼女を見ると、彼女は子どもに似ている (彼女は見た目より若い)。」
- (99) ena fiamárin te in doón ka meténo ínnó kátti gú:rí
 知識 ハマル ~の中で 私 いるはず ~のとき 頭 私の 大いに 貧しい
 ne
 だ
 「私がハマルにいたときの知識は非常に乏しかった。」
- (100) bazin t fian jigen ka fiadfan giša
 川 ~で 君 泳ぐ ~を伴って 君を 気を付けよ
 「川で泳ぐときは気を付けよ。」

3.4 sa

/sa/ は名詞・代名詞の後ろに置かれていわゆる属格を作り、「~の」「~に属する」「~でできている」などの意味を表す²⁰。

- (101) éjke sa bušino kátti čawlí ne
 先祖 ~の 髭 大いに 白い だ
 「祖父の髭は白い。」
- (102) wosa i:gí gebi da: ne ga:lin te
 我々の 楽しみ 大きい いる だ 宴会 ~の中で
 「我々はパーティーで大いに楽しんだ。」
- (103) q'aski dá: ne o:nín sa ijín te
 犬 いる だ 家 ~の中 ~で
 「家の中に犬がいる。」
- (104) kisi ro:n jinnon sa le:pi lama kontídi ne
 彼 足 自身の ~の 骨 2 彼女 壊した だ
 「彼は足の骨を 2 本折った。」

¹⁹Lydall (1976: 424;426)

²⁰Lydall (1976: 412)

- (105) kisi se:ní ga:rí bajín sa gidin t fia:pídi ne
 彼 石 大きい川 ~の底 ~に見た だ
 「彼は川の底に大きな石を見つけた。」

さらに、「~に関する事」を意味することがある²¹。

- (106) jera agá sá ina gojiti gí:ma
 もの この ~に関して 私に 道 伝えておけ
 「そのことについて教えてほしい。」

動詞に /sa/ を後接すると、名詞を限定する関係節を作ることができる²²。

- (107) anǵina be golgañña be jera in gije sa uspi esare
 女性 ~と 男性 ~ともの私 伝えている ~の説明 聞け
 「皆さん、私がこれから言う説明を聞いて下さい。」

3.5 t

/t/、/te/ は名詞・代名詞の後ろに置かれていわゆる位格を作り、「~で」「~の中に」などの意味を表す。

- (108) q'aski dá: ne sá: o:nin t
 犬 いる だ そこ 家 ~の中に
 「その家に犬がいる。」
- (109) inta imíso o:nin t woda i da wode
 私 私の友人 家 ~の中で寝る 私 いる 寝ている
 「私は友人の家で寝る。」
- (110) bodo na?ájje, ja raq'á kinče t ardáu
 ボド 行けない 君 場所 彼の ~で 入るか
 「ボドは行けない。君は彼の代わりになれるか？」
- (111) inta birán te ja?áti i dá:de, kisi tuǵín te na?áti
 私 前 ~で行き終えてない 私 している 彼 後ろ ~で 来終えていない
 ki da:de
 彼ら している
 「私は前を行っており、彼らは後ろから来ていた。」
- (112) kisi kosa súkkan te q'arbáté ki dá:de
 彼ら 彼女の 周囲 ~で 踊り終えてない 彼ら している
 「彼らは彼女の周りを踊っていた。」

²¹しばしば /gojiti/ 「道、方法」を伴う。

²²Lydall (1976: 426)

(113) bodo fiamárin te kátti gó:ba ne
ボド ハマル ~で大いに優秀だ
「ボドはハマルで最も優秀だ。」

(114) borq'oto o:nín sa gidin t dottá
ボルコト家 ~の中央 ~に置け
「ボルコトを部屋の中央に置け。」

3.6 ra, kalanka

/r/, /ra/ は名詞・代名詞の後ろに置かれていわゆる奪格を作り、「~で」「~から」「~製の」などの意味を表す²³。

(115) ina q'ante ka dan garé, ka r a6 inta si:satí ne
私に面子 この~を残せ これ~から他の私 誤るだ
「私を許してくれ(立場を残してくれ)。これからはもう間違いを犯さないから。」

(116) duká ra wosi óo jinka dan fia:pídi ne
山 ~から我々下へジンカ~を見ただ
「我々は山からジンカを見下ろした。」

(117) inta sa: o:ní ra e:di kelšinta zaga e:límá q'ánsáde
私そこ家~から人助け 欲する呼んでいる聞いた
「私には、その家から誰かが助けを求めて呼んでいるのが聞こえた。」

(118) inta ká: ra jammarájse fiambet dá: na zagátí ne
私これ~から始めること君と いる~すること 欲さないだ
「私はこれから君に頼らずにやっていきたい。」

(119) kosi ro:ro wul šidá ko šidé o:ní ra
彼女日 全て滞在する彼女 滞在している家 ~で
「彼女は毎日、家にいる。」

同じ意味を持つ後接語に /gidr(a)/、/kalanka/ がある。

(120) kerro ga:rro woči gidra ko aškada de
扉 大きい鉄 ~から彼女 作られているだ
「新しい門は鉄でできている。」

(121) ja idan q'ansan iláti ne ko wul gidra
君私を聞く 騒がしいだ 彼女 全て~を越えて
「君はこの騒がしさでも私の話が聞こえるか？」

/ra/, /kalanka/, /gidr(a)/ は比較にも用いられる。

²³Lydall (1976: 411)、cf. Lydall (1976: 410)

- (122) wadánó wonno wéjkéná wada ra kátti pajja ne
 世代 我々の我々の祖先 世代 ~より大いに良いだ
 「我々の世代は、父祖の世代よりも非常に良い。」
- (123) kósa kójmóná líkká ne da(fi)áná kinna kalánka
 彼女のお金 小さいだ持っているもの彼の よりも
 「彼女のお金は彼のより少ない。」
- (124) kosi kana kalanka guduḅ ne
 彼女弟 ~より長いだ
 「彼女は弟より背が高い。」
- (125) jinka gidr o:nno ga:rro fiamóte ko da
 ジンカ ~より家 大きいどこに彼女ある
 「ジンカで一番大きな建物はどこにあるのか？」
- (126) ímba idan kin našájno jer wul gidra baši ne
 私の父私を彼愛するものもの全て ~より優れているだ
 「父が私を愛することは、全てにまして一番だ。」

/dras/ は「~まで」の意味を持つ。

- (127) kalá ra čo: tábí dras pajdájse jaʔa
 1 ~から下 10 まで数えるもの行け
 「一から十まで数えてから行け。」
- (128) kisi koḁan ka:látí ki da:de ko:nín neʔen dras
 彼ら彼女を待ち終えてない彼している彼女 来ている ~まで
 「彼らは彼女が到着するまで待った。」

3.7 dar

/dar/ は名詞・代名詞の後ろに置かれて、「~の上に」「~に向かって」の意味を表す²⁴。

- (129) sa: tarpeza dar mango da: ne
 そこ机 ~の上にマンゴーあるだ
 「机の上にマンゴーがある。」
- (130) bire ro:ro cére dar i ka:me fiadár
 前日食事 ~の後で私会っている君に
 「昼食の後で私は君に会う。」
- (131) kosi o:nín dar kaḁájs ko naʔáde
 彼女家 ~に向かって遅くなること彼女帰った
 「彼女は遅くに家へ帰った。」

²⁴Lydall (1976: 411)

- (132) áñq'ánná šeraté ki dá:de pómá dar
 多くの蜂 飛び回る彼らしている 花々 ~に向かって
 「多くの蜂が花の周りを飛び回っている。」
- (133) aḫálá áñčé dar wala likka da: ne
 服 君 ~の上に 穴 小さいあるだ
 「君の服に小さな穴がある。」
- (134) inta wúl a:namma inna isa ga:lin dar e:lídi ne
 私 全て 友人 私の私の 宴会 ~に向けて 呼んだだ
 「私は友人全員をパーティーに招待した。」
- (135) inta kóđan ga:lín dar e:lídi ne
 私 彼女を 宴会 に向けて 呼んだだ
 「私は彼女をパーティーに呼んだ。」

3.8 be

/be/ は名詞・代名詞の後ろに置かれて「~と」の意味を表す²⁵。これは列挙する全ての名詞・代名詞に後続する。

- (136) tiḫ jaʔa, gojín sa warkata be mizaga be šeda
 前 行け 道 ~の左 ~と右 ~と見ろ
 「前へ進め。左右もよく見ろ。」
- (137) ma:na be aṅgina be, inta delín wonnon sa dālq'an na i
 男性 ~と女性 ~と私 家 我々の ~の話す ~すること私
 zagade
 欲した
 「皆さん、私は家族の話をしようと思っています。」

動詞と /be/ を一緒に使う例を次に挙げる。

- (138) inta darite kin neʔém be kin naʔimmam be
 私 分からない彼 来る ~も彼 来ない ~も
 「私は彼が来るか来ないか分からない。」

また、/bet/ は「~と一緒に」の意味を表す。

- (139) kisi a:nanta jinče jisa imbet ki dettésade
 彼 両親 自身の自身の 私と一緒に 彼 紹介した
 「彼は自分の両親に私を紹介した。」

²⁵Lydall (1976: 435)

4 ハマル語における複文

4.1 関係節と主語

第3節で述べたように、関係節は動詞と後接語で表すことができる。だがそれ以外にも、文の中に関係節を比較的自由に置くことができる。関係節の主語には、短形の人称代名詞が使われる²⁶。

長形	短形	
inta	i	「私」
ja	fa	「君」
wodi	wo	「私達」
jesi	je	「君達」
kidi	ki	「彼、彼女、彼ら」
kodi	ko	「彼女」
	ji	「(既出の) 彼、彼女、彼ら」

- (140) kosi idan miskídi ne kođan i kelde
 彼女 私を 頼んだ だ 彼女を 私が 助けている
 「彼女は私に、彼女を助けるよう頼んだ。」
- (141) inta idan je kelše zagátí ne, imar fajaja i da fajaje
 私 私を 君達 助けている 欲さない だ 私自身 する 私 いる している
 「君達が私を助ける必要はない。私ひとりです。」
- (142) kosi mango wona ro:ron wó kumme fiansídi ne
 彼女 マンゴー 我々に 日 我々 食べている 持ってきた だ
 「彼女はお昼に、我々が食べるようマンゴーを持ってきた。」

名詞を限定する関係節を作る場合、限定の /-n/ を伴う短形の人称代名詞が使われる。

- (143) jera in ojsa ká na fají ne kisa malse dese
 もの 私 尋ねる この ~に 誰 だ 彼の 答え 知っている
 「私が尋ねたことの答えを、誰か知っているか？」
- (144) inta katti fiadán gošpídi ne jera fian aškon q'ánsájse
 私 大いに 君を 驚いた だ もの 君 作る 聞くこと
 「私は、君がしたことを聞いて非常に驚いた。」
- (145) inta jer kalla in dese q'ole fiar kó:to wotín t na?ajno
 私 もの 私 知っている 無い 何 起きるはず 顔 ~で 来るもの
 「将来に何が起きるか、私には分からない。」

²⁶Lydall (ibid, 414) では “General, stem-form”。

- (146) gojte fian gija se:sadájje
道 君 伝える 公平でない
「君の言ったことは公平でない。」
- (147) ró:ro wúl ja aþo fian gijá ðan gišá
日 全て君口 君 伝える ~を守れ
「君はいつも、君の伝えた言葉（約束）を守らねばならない。」
- (148) di:bé polisná: na jer wúl jin se:són gí:dí ne
泥棒 警察 ~にもの全て彼 犯すはず 伝えた だ
「泥棒は警察に彼が犯したものの全てを語った。」
- (149) kosi so:ton wul jin e:þa dar ko wodáde jo?on na
彼女 夜 全て彼女 泣く ~に向かつて彼女 眠った 行くはず ~のために
「彼女は、友人が去ったために、夜ずっと泣きながら眠った。」

次に挙げる例は、/inin/、/konin/、/kinen/ という人称代名詞を用いる例である²⁷。

- (150) índa katti ðagaðídí ne ínin kaþájse no?ón na
私の母 大いに怒った だ 私 遅くなること 来るはず ~に対して
「母は、私が遅く帰ると非常に怒る。」
- (151) inta ðari da gije ínin pajja fajjen ðan
私 自信 ある 伝えている 私 良い する ~を
「私は成功する自信がある。」
- (152) konin ga:ðén ða:sájno kátti þajja ne
彼女 歌 歌 歌うこと 大いに良い だ
「彼女が歌を歌うのは素晴らしい。」
- (153) wosi wúl ančídi ne kinen erðankón kin gijón na
我々 全て 笑った だ 彼 冗談 彼 伝えるはず ~に対して
「我々全員、彼の言った冗談に笑った。」
- (154) kisi kinka apo je:ðídí ne kinen ilatón na
彼ら 一緒 口 不満があった だ 彼 騒がしいはず ~に対して
「彼らは騒音について不平を言った。」

次に挙げるのは埋め込み文の例である。

- (155) kinen gijóno kisi sa: je?e da je?e fia:mídi ne,
彼 伝えるはず 彼 そこ 行っている いる 行っている 言った だ
kommal q'a:þín innon ka kisi sa: ogote q'olé
しかし 考え 私の ~によって 彼 そこ これ 無い
「彼はそこに行くと主張したが、私の考えでは、彼はそこにいなかった。」

²⁷これらの分析はまだ不十分であるが、「私が~したため」「彼女が~したため」「彼が~したため」のような理由を示す名詞節を作るものと考えられる。

4.2 関係節と分詞

分詞の分析は未だ不十分である²⁸。しばしば、分詞は動詞の前に置かれ、「～して」のように動作が連続すること・同時に生じていることを示す。

- (156) jera gojite ka maq'áje, kómma dalq'ájse mačča
もの道 この完結していないだから 言うもの 終われ
「この話は完結していないので、言い終われ。」
- (157) isa q'a:bi katti gob kala i q'a:bade, agál noqón dan pajja
私の考え 大いに優れた 1 私 考えている それ水 ～を良い
fiájse jedan na
するもの 保つ ～するため
「私には水を節約するための素晴らしいアイデアがある。」
- (158) wosi ba: se:nin sa meten dar dorq'ájse čo: kataman fia:pídi ne
我々上石 ～の頭 ～の上に座ること 下町 見た だ
「我々はその石の上に座って、眼下の町を眺めた。」

分詞 + 主語 + 動詞 (E) の例を挙げる。

- (159) inta rozro wúl birin ka rati be buno be kigr wolsajse
私 日 全て前 ～によって ミルク～と コーヒー～と 一緒 混ぜるもの
i wuče
私 飲んでいる
「私は毎日、朝にミルクとコーヒーを一緒に混ぜて飲む。」
- (160) wosi lají fiámájse kidan wo da q'anse
我々 静かに 寝ること 彼を 我々 いる 聞いている
「我々は静かにして彼の話の聞いていた。」

分詞を条件節的に使う例を次に挙げる。

- (161) ja pajja q'a:bájse metén fiannon ka fiána ko arde
君 良い 考えるもの 頭 君の ～を伴って 君に 彼女 入っている
「君は、理解するのによく集中すべきだ。」

分詞を名詞として用いる例を挙げる。

- (162) siga:ran wuččadájno jer susí síja ne
タバコ 飲むこと もの 習慣 悪いだ
「タバコをのむのは悪い習慣だ。」
- (163) kátti jera baše kummajse pajja fia wodán na bíši ne
大いに もの 優れている 食べること 良い 君 眠る ～すること 体 だ
「最も大事なものは食べること、そして眠れば体に良い。」

²⁸Lydall (1976: 418) では “Relatives” 「関係詞」と呼んでいる。

- (164) ká:n utájna kojmona e:di kala kajsa apo ta:bi ki šanša de
 これ 登るもの 金 人 1 口 10 彼 買う いる
 「それを買うには 30 ブルかかる。」
- (165) in q'a:bén ka é:no e:n a:ón de:sájno 6o:ro ne
 私の 考え ~によって 人々 人 他の 殺すもの 狂っている だ。
 「私の考えでは、他人を殺す人間は狂っている。」

次に挙げるのは、分詞の否定形である²⁹。

- (166) kisi nagaja dolqe wonka fia:mídi ne b̄irajse ji ji?ímma
 彼 良い 話している 我々に 言った だ 前 彼 行かない
 「彼は出かける前に、我々にさよならを言った。」

4.3 接続詞

/komma/ は順接「だから」の意味を表す。

- (167) kisi fiadan jer ki ójse, kómma kina ma:sa uspé dan
 彼 君を もの 彼 尋ねている だから それに 答えよ 声 ~を
 「彼が君に質問するので、それに答えてくれ。」
- (168) é:no wúl kína so:ton wús maján te utídí ne, kommal inta bíši ne
 人々 全て 今日夜 外 ~で 出た だ しかし 私 体 だ
 šida della r
 滞在する 家 ~で
 「今夜は全員が外出しているが、私は一人で家にいる。」
- (169) muzina kira šannó kisa kátti širi ne, komma inta antén kisa
 バナナ それ 買うもの 彼の 大いに 安い だ だ から 私 ほとんど 彼の
 šaná i da šane
 買う 私 いる 買っている
 「これらのバナナは非常に安い。だから私はそのほとんどを買う。」
- (170) isa q'a:bi kala gojíti q'ole, kómma inta ta:ki ja?i di je?e
 私の 考え 1 道 無い だ から 私 今 行く いる 行っている
 「私には選択の余地がない。だから今、行かなければならない。」

/kommal/ は逆接「しかし」を示す。

- (171) pé:no kátti b̄iri ne kommal wosi da:q'ardídi ne
 地 大いに 早い しかし 我々 腹が減った だ
 「まだ時間が早いですが、我々は腹が減った。」

接続詞の /kokka/、/kokkal/ の例を次に挙げる。

²⁹Lydall (1976: 419)。

- (172) ro:rono akár ne, kokka p̄ajja rá:tá da rá:té
 日 早い だ しかし 良い 眠る いる 眠っている
 「日が早いが、君はよく眠れるだろう。」
- (173) kisi ga:len aṗon tamará ki tamaré, kokkal p̄ir p̄aranjin aṗon
 彼ら 町 口 学ぶ 彼ら 学んでいる また 外国人 口
 「彼らはアムハラ語と、さらに英語を学んでいる。」
- (174) wosi worrént utan na zagídí ne kokkal dommo geto ko
 我々 出る ～すること 欲しただ 大雨 降る 彼女
 da:de
 している
 「雨が降っているが、我々は出発しようとした。」

接続詞の /gin/ 「しかし」を使う例を次に挙げる。これはアムハラ語からの借用と思われる。

- (175) kosi burq'adídi ne, gín ta:ki kosi pa:šídi ne
 彼女 病んでいた だ しかし 今 彼女 回復した だ
 「彼女は病んでいたが、今は回復した。」
- (176) kisi p̄o:gómó e:di ne, gin inta in gijá:ti ne
 彼 嘘つき 人 だ しかし 私 私 伝えなかつた だ
 「彼は嘘つきだ。私はそんなことを言わなかつた。」

4.4 条件節

条件節「もし～なら」を作るには、短形人称代名詞に /-nna/ を付けた語を文末に置く³⁰。

- (177) d̄a:ḡidi enna, íšín ka nagaja wod̄da fia:ma i da fia:me
 立つ ～なら 私の兄 ～によって 良い 眠る する 私 いる している
 「私は起きると、兄におはようを言う。」
- (178) inta i geḡidi enna, akimi i má:tá ná i zage
 私 私 成長する ～なら 医者 私 なる ～すること 私 欲している
 「私は大きくなったら、医者になりたい。」
- (179) i burq'adídi éna, inta akimin o:non jaʔi di jeʔe
 私 病んだ ～なら 私 医者 家 行く いる 行っている
 「私は、病気になったら医者に行く。」
- (180) kummájse p̄ajja wod̄fidi anna, ja e:di te:namma fia:dar de
 食べる こと 良い 眠った ～なら 君 人 健康 君の上 にいる
 「よく食べて眠れば、君は健康でいられる。」

³⁰Lydall (1976: 426) では /anna/ を結合して条件文を作ると記述しているが、別の形式があると思われる。

- (181) zagidi anna, ja maja róx utá:té jaʔa da
 欲した ~なら 君 夜 ~を通して 出終えていなかった 行く いる
 jeʔe
 行っている
 「もし望むなら、今晚行ってきても良い。」
- (182) ja ɗalq'ana zagídí fianna, inta fiadan q'aná i da q'ané
 君 話すもの 欲する ~ならば 私 君を 打つ 私 いる 打っている
 「君が話しを続けるなら、私は君を罰する。」
- (183) do:bi gebi gajdi konna, mi:ri pač naq'o-neʔe fia:marin te
 雨 大きい ~なら 洪水 多量 溢れている ハマル ~の中で
 「大雨が降ると、ハマルではよく洪水になる。」
- (184) wosi ro:rono q'aji konna utájse gojín joʔo
 我々 日 冷たい ~なら 出るもの 道 行くはず
 「我々は、日が涼しくなったら出発する。」

短形人称代名詞に /-nnal/ を付けた語を置くことで「~だとしても」の意味を表すことができる。

- (185) ta:ki je pimɓídi jennál lej fiamaǰse dorq'e
 今 君達 恐れている ~だとしても 静かに しているもの 座れ
 「怖くても、じっと座っていなさい。」

次のように接続詞を用いない例もある。

- (186) sá:ná sá:ná naʔa ja tudímba šidámbe fia zagámma
 速い 速い 来い 君 後ろ 滞在している 君 欲さない
 「遅れたくなければ、急いで来い。」

4.5 理由節

理由を示す節を作るには、短形人称代名詞に /-nna/ を付けた語を文頭に置く³¹。

- (187) inta angalla gabba tæmmærtæn o:no jaʔátí ne, inna šidono
 私 先日 週 学習 家 行かない だ なぜなら 滞在すること
 burq'adaise ne
 病気になること だ
 「私は病気だったので、先週は学校に行かなかった。」

しばしば用いられるのは、/fiarna fia:midi fianna/ 「なぜかを君に言えば」、
 /fiarna fia:midi jenna/ 「なぜかを君達に言えば」という定型句である。

³¹ それに対し、条件節は /-nna/ を文末に置くことに注意されたい。

- (188) inta se:ní ka da:satí ne, fiarna fia:midi fianna kátti detá ki deté
私 石 この動かさないだ なぜ 言った 君に 大いに重い 彼 重い
「私はこの石を動かさせない。なぜかと言うと、それは重すぎるから。」
- (189) inta q'ansá:ti ne, fiarna fia:midi fianna kinen q'á:bono gijájno
私 聞かなかっただ なぜ 言った 君に 彼 考え 伝えたもの
ina ardájje
私に入らない
「私は理解できなかった。なぜかと言うと、彼の説明がはっきりしないからだ。」
- (190) kerin gitá bánzo, fiarna fia:midi fianna maján te e:no ilátá ko
扉 閉じる どうか なぜ 言った 君に 外 ~で 人々 騒がしい 彼女
iláte
騒がしい
「どうか扉を閉じてくれ。なぜかと言うと、外が騒がしいから。」
- (191) ja na:na kira dan kinka kidar fiaja ná damátá ne,
君 子ども それ ~を 彼によって 彼に向かって する ~すること できないだ
fiarna fia:midi fianna kisi kidan tafée
なぜ 言った 君に 彼 彼を 似ていない
「それとそれとを比べることはできない。なぜかと言うと、それはそれと同じではないから。」
- (192) inta astama:re dan wona pír ki gije fiajsidi, fiarna fia:midi
私 先生 ~を 我々に また 彼 伝えている 願った なぜ 言った
fianna wona ardájje jera won tamaráté da
君に 我々に入らないもの 我々 学び切っていない いる
「私は先生に、我々にもう一度説明してくれるように頼んだ。なぜかと言うと、我々には、我々が学んでいるものが理解できなかったから。」
- (193) jérro gilónó kátti pājja ne, fiarna fia:midi fianna jerin éna
もの 伝統 大いに 良い だ なぜ 言った 君に もの 知識
sagon désan na
過ぎ去ったはず 知る ~するため
「歴史は非常に面白い。なぜか。過去のことを知ることができるため。」
- (194) kisi jimal jidan a:nídi ne, fiarna fia:midi fianna kisi kin bakon
彼 自分自身 自分を 憎んだ だ なぜ 言った 君に 彼 彼 失敗するはず
na
~したため
「彼は自己嫌悪した。なぜか。彼は失敗したため。」
- (195) inta ta:ki o:nín te jaʔan na zaga i de zage, fiarna
私 今 家 ~に行く ~すること 欲する 私 いる 欲している なぜ
fia:midi fianna inta katt q'ajadídi ne
言った 君に 私 大いに 疲れた だ

「私は今、家に帰りたい。なぜかと言うと、ひどく疲れたから。」

- (196) kisi kátti woti e:di ne, fiarna fia:midi fianna anġamo p̄ajja kisi fia:pídi
彼 大いに 幸運 人 だ なぜ 言った 君に 贈り物 良い 彼 見た
ne
だ

「彼は非常に幸運だ。なぜかと言うと、素敵なプレゼントをもらったから。」

- (197) noq'on ga:rin t ardan gare, fiarna fia:midi jenna katti te:ri
水 大きい ~の中に入る 止めよ なぜ 言った 君達に 大いに 深い
kon do:n na jesi gidr wa:rá:ti ne
彼女 いるはず ~すること 君達 ~より 泳げない だ

「湖に入ってはいけない。なぜかと言うと、そこはとても深く、君達は泳げないから。」

4.6 複合語

ハマル語の形容詞はしばしば繰り返すことによって表現されるが（例えば /ojda ojda/ 「熱い」）、異なる語同士を合成し、新たな意味を生み出す複合語も見られる³²。

次に挙げるのは複合動詞の例である。

- (198) inta t'a:p̄e inċe fia:pá:ti ne, e:di kidan tí:ma-garájje
私 ペン 私の 見ない だ 人 彼を 持っていく-残さない
「私のペンが見つからない。誰かがあれを持ち去った。」

- (199) ja pimba-garídí ne jaʔan na
君 恐れる-残す だ 行く ~すること
「君はまだ行くのを恐れている。」

- (200) inta gojin takát í da sage
私 道 切る 私 いる 渡る
「私は道を横切った。」

- (201) kisi gojin takát ki sage
彼 道 切る 彼 渡る
「彼は道を横切った。」

- (202) po:lono čačín te guda-dakídí ne, ta:ki q'aná ko q'ane
雲 空 ~で 薄暗い-結んで だ 今 打つ 彼女 打つ
「雲が空一面を薄暗く覆った。すぐに（雨が）降るだろう。」

また、複合語による副詞や形容詞の例を次に挙げる。

³²Lydall (1976: 436-437)

- (203) kisi sa: raʔa te genemájs ka:p̄in-kalá dijídí ne
彼 所 場所 ~で 事故 遅れる-1 死んだ だ
「彼はその場所で事故に遭い、間もなく死んだ。」

5 おわりに

本稿では、ハマル語の文例をとり上げ、大まかな分類を行った。これらの中には、先行研究では触れられていない形式が少なくない。それゆえ、文を既知の類似形式に当てはめて分析するよりも、文型の分類から再考し、改めて細部の分析を始めるべきである。特に、条件節および理由節で用いられる人称代名詞 (/enna/, /konna/ など) の存在は、ハマル語における形態素の呼応を考える上で重要であると思われる。

また、今回の調査においてハマル語における多様な複合語の存在を確認することができた。形態論と統語論の狭間に位置する複合語の分析も、今後の研究に欠かせないものである。

【参照文献】

- Lydall, J. 1976 “Hamar” In M. L. Bender (ed.) *The Non-Semitic Languages of Ethiopia*. Michigan: Michigan State University. 393-438.
- 高橋洋成 2006 「ハマル語の音素とアクセント」 乾秀行 (編) 『オモ・クシ系少数言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築 (Cushitic-Omotc Studies 2006)』 81-91.
- 高橋洋成 2009 「ハマル語の基礎語彙、ならびに動詞形態の考察」 乾秀行 (編) 『オモ・クシ系少数言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築 (Cushitic-Omotc Studies 2008)』 107-138.
- 高橋洋成 2010 「ハマル語の代名詞と後接語体系」 乾秀行 (編) 『オモ・クシ系少数言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築 (Cushitic-Omotc Studies 2009)』 131-164.